

「リハビリテーション・サミット 2015」 開催される

11月3日(火)、帝京平成大学沖永記念ホール(東京都豊島区)にて「リハビリテーション・サミット 2015」が開催されました。本サミットでは、「いきいきと暮らすためのリハビリテーション～地域包括ケアを支えるために～」をテーマに、2つの講演とシンポジウムが行われました。

講演Ⅰでは厚生労働省老健局長の三浦公嗣氏に「地域包括ケアとリハビリテーションの役割」について、講演Ⅱでは公立みつぎ総合病院名誉院長・特別顧問の山口昇氏に「今後の地域包括ケアシステムの構築にリハビリテーションはどのような役割を担い果たしていくのか」について、ご講演いただきました。

シンポジウムでは、「地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーションへの期待」をテーマに、リハビリテーション医学、リハビリテーション看護、セラピスト、リハビリテーション病院・施設、学識経験者、それぞれの立場からご発言いただき、「地域包括ケアにおいてリハビリテーションがどのように貢献すべきか」について意見交換が行われました。

シンポジウムの終了時には、以下のとおり宣言文が採択されました。
各病院・施設におきまして、ぜひ掲示して頂きますようお願い致します。

[リハビリテーション・サミット 2015 宣言文はこちら](#)

リハビリテーション・サミット2015

宣言文

私たちは人生のあらゆるステージで、変化するニーズを踏まえて、その人の望む生活の実現を目指したリハビリテーションを実践します。

さらに、住民の自助力の向上及び支え合いづくりなどを支援し、地域包括ケアが全国各地で推進されるよう努めます。



宣言文を発表する栗原会長
(全国リハビリテーション医療関連団体協議会)

～ 宣言文 掲示例 ～

